



JAたじま GLOBAL G.A.P.認証取得 ～労働安全管理面の取り組みについて～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

あらためてコウノトリ





成田さん作成資料より抜粋

コウノトリ育む農法の定義

安全なお米と

生きものを

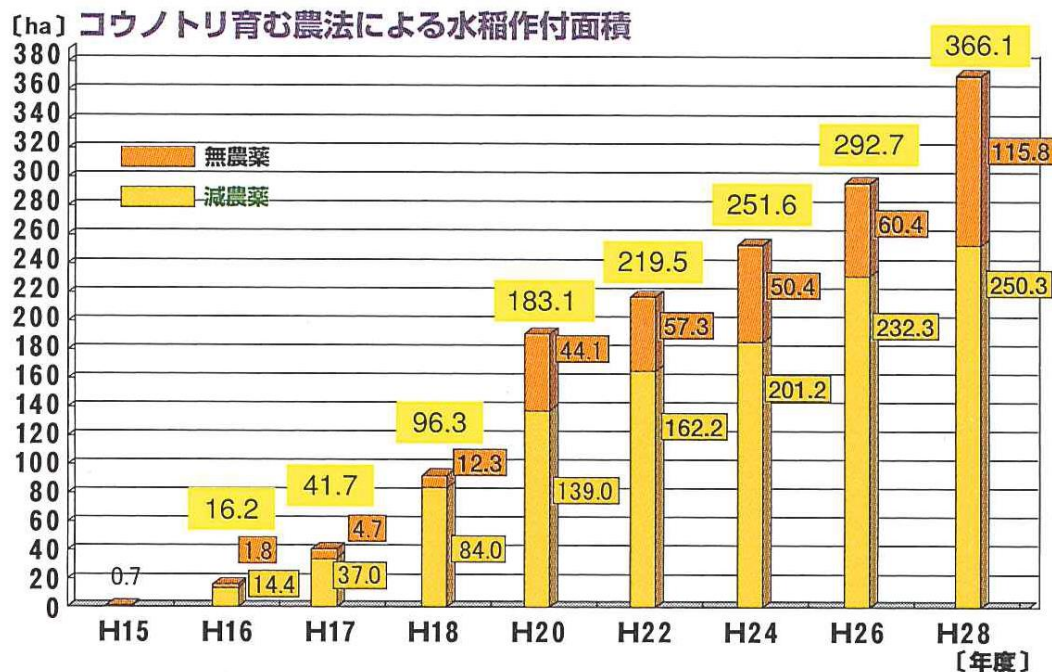
同時に育む農法

おいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリも住める
豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法

なぜGAPに？

POINT3 貢献 Contribution

～このお米を食べること。それが環境への貢献活動になります～



「生物多様性の保全」。そう聞くと、とても大それたことのように聞こえますが、決してそうではありません。

私たちは環境に配慮した商品を購入することで、間接的に貢献活動に参加できるのです。

コウノトリ野生復帰の取組みの1つとして平成15年わずか0.7haの面積で始まった「コウノトリ育む農法」。

生産者の熱意により取組みの輪は広が

り、平成28年には、366.1haに拡大し、約320名の生産者が丹精込めた米づくりを進めています。

豊岡では、たくさんの生きものが育まれた田んぼの広がりにより野生化で90羽を超えるコウノトリが舞い、かつての景色を取り戻しつつあります。

農薬や化学肥料に頼らない、手間暇かけて作られたこのお米。

この取組みを支えていただいているのは、全国の手量販店や百貨店をはじめとする事業者のみなさん、そしてこのお米を食べていただく消費者のみなさんです。

■米のブランド力強化

- 試験輸出の継続 (イタリア・シンガポール・ニューヨークなど)
- 輸出に向けたG-GAP (グローバルギャップ) 取得等の条件整備
- さらなる食味の向上

2020年東京オリンピック選手村での使用を目指す！



私たちが取り組んだこと

JAたじまでは、グループ認証を取得しました



オプション1
個別認証

1法人もしくは
1個人で認
証取得します

QMSなし
単一サイト
認証

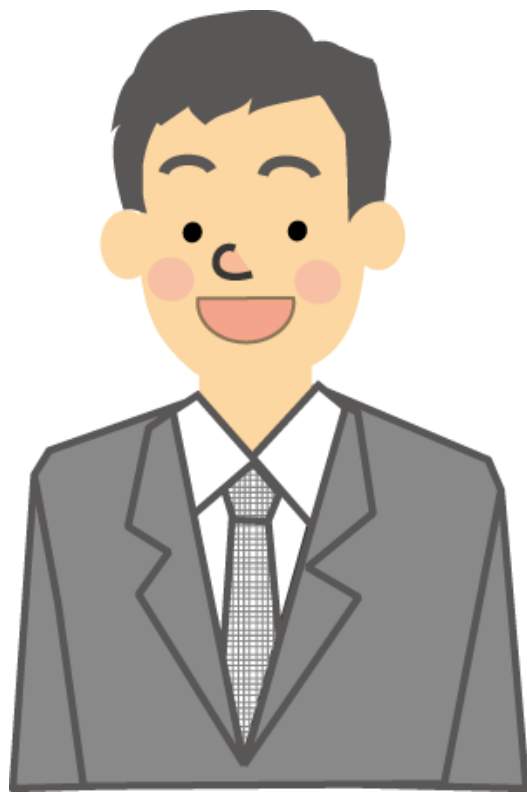
QMSつき
マルチサイト
認証

オプション2
グループ認証 (QMSつき)

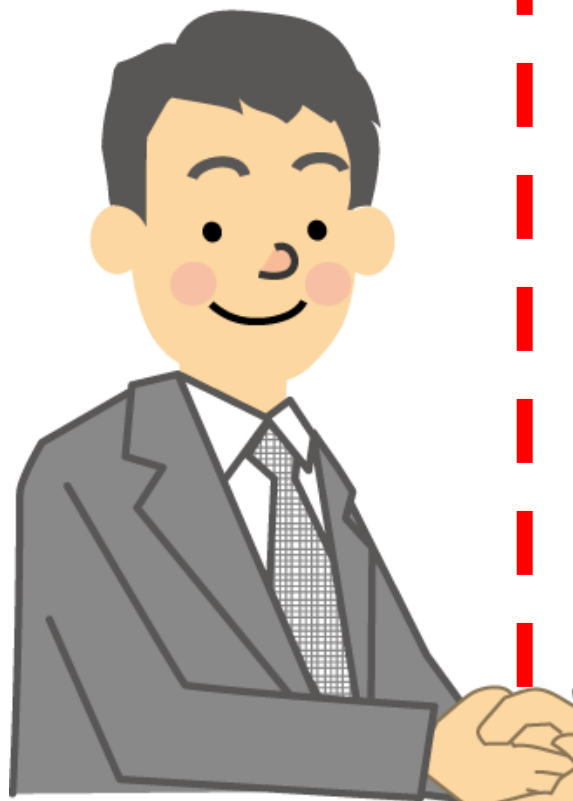
複数の個人や法人で
認証取得に取り組みます

QMS = Quality Management System

「品質に関して組織を指揮し、管理するためのマネジメントシステム」を意味します。いわゆる「本部機能」です。



事務局担当



TAC



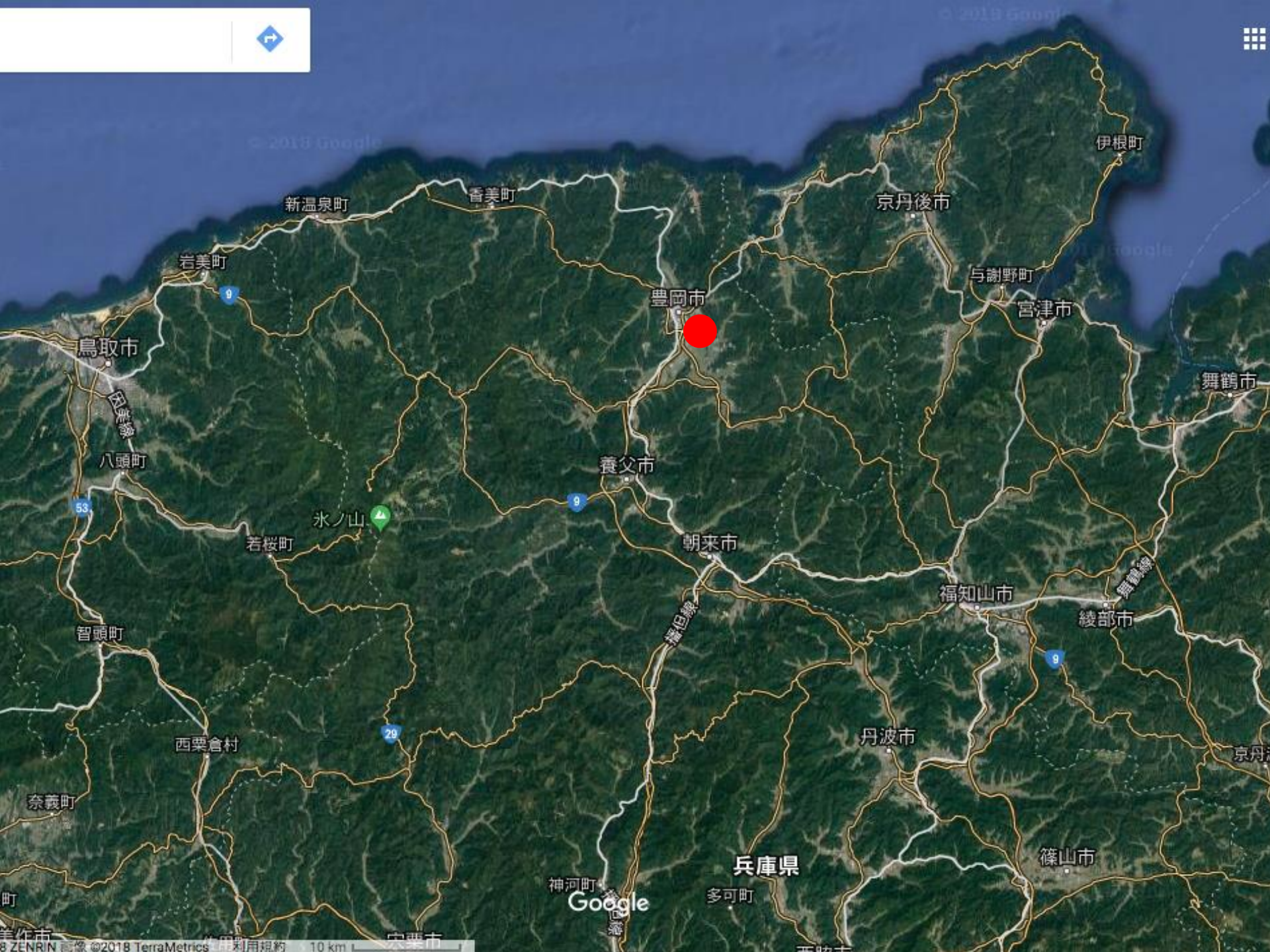
組合員



いつだ
愛と米がある

いつだ
愛と米がある





© 2018 Google

© 2018 Google

伊根町

京丹後市

新温泉町

香美町

岩美町

豊岡市

与謝野町

宮津市

鳥取市

舞鶴市

養父市

氷ノ山

若桜町

朝来市

福知山市

綾部市

智頭町

西粟倉村

丹波市

奈義町

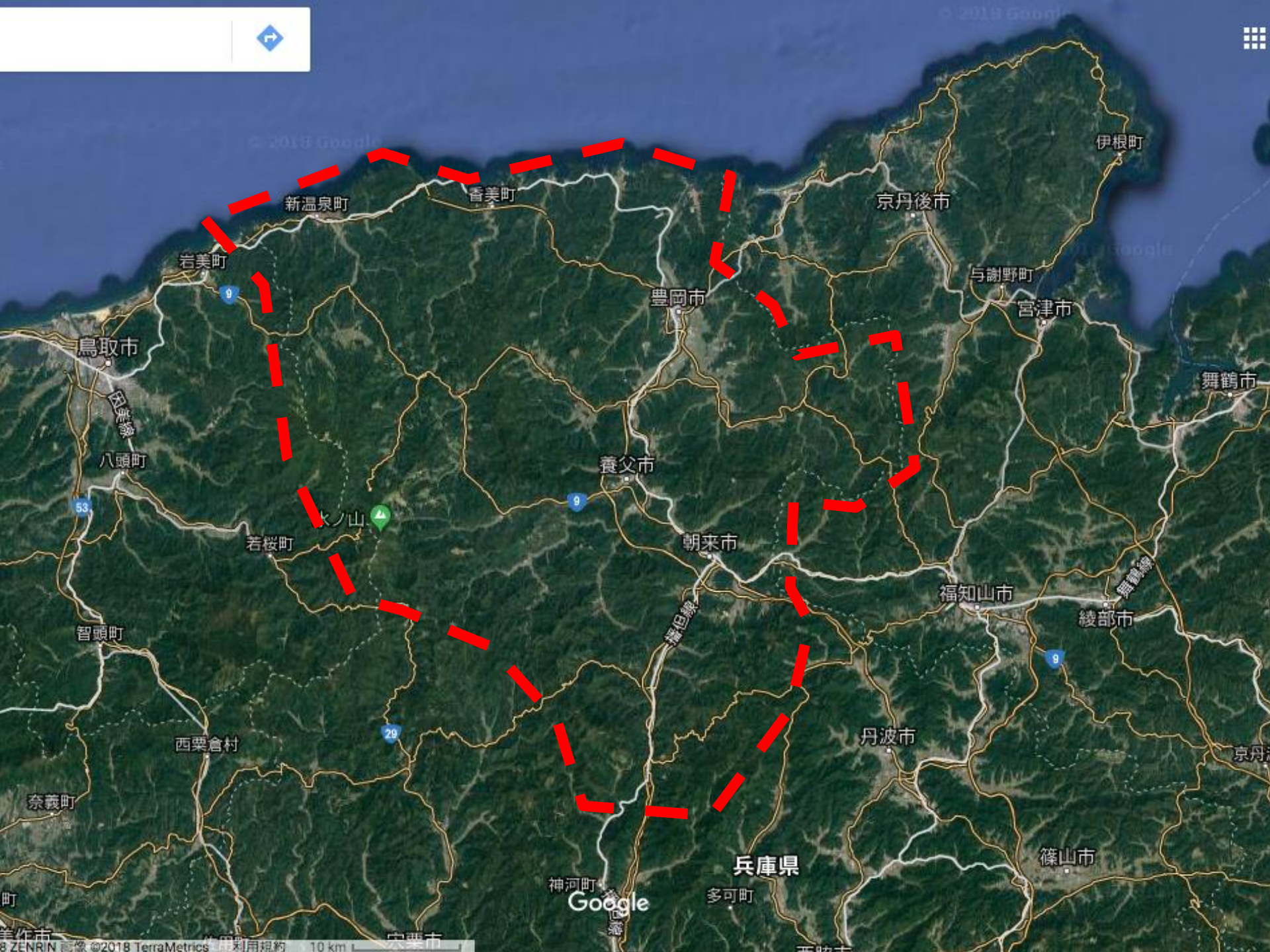
兵庫県

篠山市

神河町

多可町

Google



© 2018 Google

© 2018 Google



伊根町

京丹後市

新温泉町

香美町

岩美町

豊岡市

与謝野町

宮津市

鳥取市

舞鶴市

八頭町

養父市

大山

若桜町

朝来市

福知山市

綾部市

智頭町

西粟倉村

丹波市

奈義町

兵庫県

篠山市

神河町

多可町

Google



GLOBALG.A.P.



植田農園-30-0083

144 JASコシG



(JAS)

検査証明書

30 年産	水稻うるち玄米	荷造り、包装及び左記の 事項を証明する。
銘柄 兵庫県産	コシヒカリ	
正味重量規格 30 kg		たじま 農業協同組合
皆掛重量 30.5 kg		

オーガニック CC
118-011
有機玄米

検査請求者記載欄

検査請求者 有限会社 植田農園
 兵庫県豊岡市但東町唐川61-1
 たじま農業協同組合
 九日市上

品名 コシヒカリ

有機JASもグループで認証取得

**組合員が新たな書類や記録を
作ったものは基本的にありません**

**グループ認証で良かったのは
みんなで解決できること
人数が集まると
「文殊の知恵」になります**





**個別の農作業は
基本的に栽培暦に基づいたもの**

各自の工夫は活かしている

安全管理の取り組み

- 「さあ、みんなで安全を考えましょう！」というノリは、全くありませんでした。
- 昨年のシンポジウムで城向さんが発表されたように、やっぱり「リスク評価」がスタート。
- 危険を感じるところが農場ごとに異なることを、リスク評価で改めて確認した。
- そこで、全員が同じ取り組みをするのではなく、農場ごとに対策をしていくことに。

【 豊岡市但東町 】 植田農園の事例

- コウノトリ育む農法が経営の中心。そのうちの10ha弱が「GAP&有機JAS」
- 経営者の植田氏は、JA青壮年部の兵庫県代表も兼務していた。
- 法人化されており、通年雇用者も確保。
- 親から子への経営移譲も完了。
- 子供が将来農業を継げる環境づくりも視野に入れていた。

働きやすい環境づくりが
主な取り組みとなった



(グローバル)GAPを取ったら
生産にも消費者に対しても太いレールができる

GAPで自分のこともプラスになる

今後について

今後について（1月26日記者発表会 組合長発言より）

【 生産面について 】

- 部会の皆さまと相談しながら、生産の仲間を増やしていきたい。
- GLOBALGAPの認証取得に関心のある方は、ぜひチャレンジしていただけたら。

【 販売面について 】

- 2020年オリ・パラ東京大会への出品に向けて、引き続き取り組んでいく。
- 実需との結びつきを作っていく。
- 「コウノトリ育むお米」の知名度をあげる活動に、引き続き取り組んでいく。

